

---

# 異世界奴隷兵日記

積木崩し

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界奴隷兵日記

### 【Nコード】

N0954BA

### 【作者名】

積木崩し

### 【あらすじ】

平凡な高校生である主人公が、ある日異世界に迷い込み、そこで行われている戦争に参加させられるお話。

## 第一話（前書き）

どうも始めまして、積木崩しと申します。

この作品が処女作となります。

気をつけるつもりですが、作者の実力不足により、誤字脱字や文法ミス、わかりにくい文章などが発生すると思われます。どうかご了承くださいm（ー）m

## 第一話

自分が何者かと聞かれたら、しがない高校生だと答える。

部活には入らず、放課後はもっぱら遊ぶかバイト。赤点をとらない程度に勉強し、成績はずっと真ん中。クラスでは孤立するわけでもなく、中心にもなれない。

自分は、良くも悪くも『特別』じゃない。

そんな感じで、自分自身のことを認識し始めていた高校二年のとき『それ』は起こった。

\*\*\*\*\*

ある日、目が覚めると見知らぬ森にいた。

……テンプレだ。ああ、物の見事にテンプレだとも。アニメや小説などでは、お決まりのパターンだ。

しかし、お決まりと言っても、それはフィクションであってリアルではない。

フィクションであるから、お決まりだのテンプレだの言えるのであって、リアルに体験したらそんな気楽には考えれない。

何しろ気がついたら全く知らない場所にいるのだ。これで気楽な人はそうそういないだろう。

いたとしても、それは不測の事態に対応する訓練を受けた人間が肝が据わった人間、又はただの馬鹿かのいずれかだろう。

そのいずれにも当てはまらない、平凡な高校生である俺は途方に暮れるしかない。

何しろ周りを見渡す限り、木、木、木、木、木で埋め尽くされている。

解るのは、空が晴れていること、広葉樹の森にることぐらいしかない。

「…ははっ」

気がついたら口から笑い声が漏れていた。どうやら、人間は本当に困ったら笑うしかないらしい。

俺はその場に座り込んでしまった。

\*\*\*\*\*

30分ほどその場にいたのだろうか。

徐々にだが最初のショックも抜けてきたのか、ポジティブな考えが  
浮かんできた。

そもそも、見知らぬ場所とはいえ、ここは日本なのだ。森さえ抜け  
れば人くらいいるだろう。

そう考え、俺は歩き始めた。

## 第一話（後書き）

読んでいただき、ありがとうございます。

更新は、週一を目指します。

感想、ご意見等待っています。

## 第二話

知っているだろうか。

一昔前には、ぶら下がることを目的とした運動器具があったのだ。

今となつては意味不明に思えるが、当時は流行っていた……らしい。

何しろ母親から聞いた話なので、本当かどうか怪しいが、もし、本当ならば俺は時代遅れということになるだろう。

何しろ現在進行形でぶら下がっているのだから。

いや、正確には足から逆さまにぶら下がっている。

まさに、吸血鬼モドキ！……と言いたい所だが、今どき逆さまにぶら下がる吸血鬼なんてはやらないな。

最近のフィクションの吸血鬼は、怪力、不老不死とかいいところだけあって、ニンニクや聖水が効かないタイプばかりだからな。さらに、血を吸わなくてもOKという吸血鬼である意味がよくわからないものまである。

個人的には、古き懐かしき吸血鬼も好きなんだがな。

さて、話が逸れたな。

まず、なぜこうなったのか説明するでしょう。



\*\*\*\*\*

現状打破の為に歩き出して数分後、木々の間を抜けようとした時だった。

プチッ

足に何かが引っかかった感触と何かがぎれる不吉な音。

「おわあああああっ！」

情けないことに俺は悲鳴をあげながら、あっという間に縄に両脚を絡め取られ、空中に釣り上げられてしまった。

そうして、今に至る。

……ああ、そうだとも、罨だ。どこからどうみても、間違える方が難しい罨だ。

ワイヤーを使ったよくある罨。単純極まりない。

とわいえ、引っかかってしまったのなら、しょうがない。抜け出すとしよう。このままぶら下がっていて、いいことなど一つも無いかな。

なに、この程度の罨など簡単に抜け出せる……はずだった。

この罨から抜け出すには足の縄をほどくか、切ってしまったらよい。  
問題は俺の身体能力では、身体が90°以上持ち上がらないことだった。

くそっ、こんなことなら体を鍛えておくんだっただ。

しかし、後悔先に立たず。今更そんなこと考えても仕方がない。  
考えるべきは、どうやってこの現状を打破するかだ。

まず、今の状況を整理しよう。

? 見知らぬ森にいる

? 対人用? の罨にかかる

? 自力で解除不能

? あれ、積んでないか? 今、ココ

……まあ、罨があるなら誰か様子をみにくるだろう。それまで、待つとしよう。

何分にも、やれることがない。

……どうか、この罨が対人用じゃありません様に

## 第二話（後書き）

どうも、積木崩しです。

まず始めに

更新遅れて、すみませんでした。 m ( | ( m  
まさか、更新日を間違えるとは…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0954ba/>

---

異世界奴隷兵日記

2012年1月10日20時58分発行